

〔 一般教養科 〕

〔 区 分 A 〕

塚本 亜美

遠隔授業による英語の授業 - 高専3年生を対象とした技術英語のケース -

塚本亜美*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等専門学校英語教育学会研究論集、第41号、pp115-124、(2022.3)

これは新居浜工業高等専門学校で2020年に実施された、英語の遠隔授業の実施報告である。本報告では、どうやってWeb Classを介して授業が行われ、どうやって教員と学生が相互に通信していたのかを説明する。高専ではWeb Classという既存のプラットフォームを使い、遠隔授業を実施していた。黒板の代わりにパワーポイントファイルが用いられた。また、学生アンケートの結果からこの遠隔授業に対する評価についてまとめた。

濱井 潤也

チャールズ・テイラーにおける世俗化の「長征」から読み解く「生きる意味」の奥行

濱井潤也*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター『ぷらくしす』、通巻第23号、(2022.3)

2007年に刊行されたチャールズ・テイラーの名著『世俗の時代 (A Secular Age)』は、我々が現在到達している宗教の理解へと至る歴史的、地政学的な経緯（もちろん西洋社会とキリスト教を中心的題材とするという限定は付くが）を、決して一方向の運動としては定まらない無数の諸要素のまさしくダイナミックな群雄割拠、栄枯盛衰として精緻に描き出している。

本稿ではこのテイラーの「世俗化」理論が折に触れる人間の「人生の意味」の解釈を、トマス・ネーゲルの人気の論考「人生の無意味さ」との比較を通じて際立たせてみたい。それによりネーゲルの「人生の無意味さ」についての考察を、テイラーの「世俗化」論に垣間見える「人生の意味」解釈の内に位置づけることによって、歴史的な厚みと奥行きの中で際立たせること、そして同時に連綿と続くテイラーの果てしない「世俗化」理論を現代的な感覚と接続して解釈することが目的である。

〔 区 分 B 〕

佐伯 徳哉

伊予国知行国主 西園寺家と伊予国支配

佐伯徳哉*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

『新居浜市の歴史』新居浜市、pp32-33、(2021.4)

鎌倉時代の伊予国内支配を武士による支配によって説明してきた従来の研究に対し、京都の有力貴族で

ある知行国主西園寺家による伊予国支配から説明するという観点を提起したもの。とりわけ、関東申次として朝廷と幕府の交渉窓口にあつて、また、摂関家や鎌倉將軍家とも親戚関係にあつた有力貴族西園寺家がおよそ100年もの長期にわたつて伊予国知行国主をつとめるという異例の支配が行われたことから、この時代の中世国家の西国支配における伊予国の位置づけを考えていかなければならないという課題を提起した。

佐伯 徳哉

伊予国衙関係社寺による国家祈禱体制

佐伯徳哉*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

『新居浜市の歴史』新居浜市、pp34-35、(2021.4)

鎌倉時代の伊予国支配の行政機関であつた国衙(越智郡所在)が中心となつて果たした機能のうち国家儀礼の執行体制に焦点をあてて説明したもの。東中予を中心に存在した有力社寺に天下泰平・五穀豊穡の国家的祈禱を分担して行わせ、その必要経費をねん出するための免田がそれら社寺に分与されて、この国家祈禱体制がなりたつていたことを説明した。

野田 善弘

理系のための中国語入門【第3刷】

杉山明*1、畑村学*2、野田善弘*3、泊功*4、橋本剛*5、張婷婷*6、張潔*6

*1 津山工業高等専門学校総合理工学科、*2 宇部工業高等専門学校一般科目*3 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*4 函館工業高等専門学校一般系、*5 松江工業高等専門学校情報工学科、*6 大連東軟信息学院

好文出版、(2021.4)

2017年に刊行した『理系のための中国語入門』(中国地区高専中国語中国教育研究会)は、すでに2019年4月に改訂作業を加え第2刷として発行したが、改めてその不備や不足を補い、第3刷を刊行するに至つた。

本教科書は、中国語圏で高専生が活躍する際に役立つ内容を盛り込んだ他に例を見ない教科書で、すでに多くの高専で使用され、高い評価を受けている。今回、第2刷の教科書を、指導資料も含めて訂正し、さらに音声資料をQRコード化するなど、より利用しやすいものに改良することができた。

木田 綾子

枠物語として読む

有村隆広*1、上江憲治*2、木田綾子*3、小松紀子*4、佐々木博康*5、下菌りさ*6、西嶋義憲*7、

野口広明*8、林寄伸二(編者)*9、古川昌文*10、村上浩明(編者)*11

*1 九州大学名誉教授、*2 弓削商船高専名誉教授、*3 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*4 奈良女子大学非常勤講師、*5 大分大学名誉教授、*6 駒澤大学総合教育研究部、*7 金沢大学経済学類、*8 元九州産業大学教授、*9 立命館大学言語教育センター、*10 広島大学文学部、*11 長崎外国語大学国際コミュニケーション学科

カフカの長編小説、NextPublishing Authors Press、pp156-172、(2021.5)

フランツ・カフカの長編『城』(1922)では、さまざまな人物が、村を訪れた主人公Kとの会話において長い話をする。登場人物が何らかの話をすることによって、長編の中に一つ、あるいはいくつかの話が組み込まれる文学形式は、一般的に枠物語と呼ばれる。本論は、長編の中に登場人物の語る長い話が組み込まれた『城』という作品を、枠物語として読むことによって、カフカの長編の新たな解釈を試みた。

〔区 分 C〕

佐伯 徳哉

石見三宮岡本文書目録

佐伯徳哉*1、西田友広*2、目次謙一*3、中司健一*4、倉恒康一*5、浅野友輔*6

*1 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*2 東京大学史料編纂所、*3 島根県古代文化センター、
*4 益田市教育委員会文化財課歴史遺産研究センター、*5 島根県教育庁文化財課世界遺産室
*6 上智学院ソフィア・アーカイヴズ

『古代文化研究』30号、島根県古代文化センター、pp153-170、(2022.3)

三宮岡本文書は、石見国三宮社（島根県浜田市）にかつて伝来した古文書で、中世後半期から近世初頭の石見国中部地域の歴史を解明するうえで最も質的にめぐまれている。しかし、かつて300通を数えたこの文書群は、現在は行方不明であり、大正から昭和初年に旧島根県史編纂の際、筆写された謄写本が島根県立図書館に収蔵されているのみである。この文書群は、年号を欠くいわゆる無年号文書が多くを占めていることが問題であり、これが、この古文書群を研究に利用しがたいものにしてきた。そこで、この無年号文書の年代を割り出す基礎研究を、関連史料のデータを収集・比較分析して可能な限り行い、年代順に配列する作業を行い目録化した。この分析のプロセスを説明し、さらにそれをもとに、石見三宮社とその神職にあった岡本氏の歴史を整理した。

木田 綾子

小箱のモチーフ——『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』について——

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第58巻、pp40-45、(2022.1)

ゲーテ晩年の大作『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代あるいは諦念の人々』には、作品全体を通してたびたび小箱が登場する。ヴィルヘルムの息子であるフェーリクスが見つけた小箱は、蓋が開かないため中身が分からない。彼が好意を抱くヘルジーリエが後に鍵を手にするものの、結局小箱は開けられないままになる。『遍歴時代』の挿話の一つである「新メルジエネ」において、小人の姫が暮らしているのも小箱の中である。この小箱は無関係に見えながらも、フェーリクスの小箱を十分に連想させる。秘密が守られるフェーリクスの小箱と、秘密が簡単に暴かれる小人の姫の小箱は対象的でもある。

『遍歴時代』は、ヴィルヘルムとその他の人々、つまり諦念に至る人々に関する逸話や手紙などの様々な資料から成り立つ。本論は、この構成が枠物語形式であると分析し、枠物語形式と小箱のモチーフとの関連を示す。この小箱のモチーフにこそ、ゲーテがロマンに込めた文学技法の秘密が隠されている。

沼田 真里

病と障害の文学の先駆者・子規—その方法と趣向

沼田真里*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

子規博便り、40(11)、(2021.7)

松山市立子規記念博物館からの依頼で特別寄稿した論文。正岡子規とえば、闘病しながら病床で創作しているイメージが広くひろまっているが、本論では、あらためて障害当事者作家の先駆者としての子規を再検討することを目的とした。分析方法として、子規の随筆に見られる手法（想像力を用いる〈追想〉〈回想〉、物で語らせるなど）を実際の文章に添って分析した。その結果から、病と障害の状況が、子規の表現のバリエーションを更に豊かにしている点を考察した。

沼田 真里

新出資料・森盲天外の「盲人の読書難」について

沼田真里*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第58巻、pp36-39、(2022.1)

本論では、愛媛県の地方政治家であり、20代で失明した中途視覚障害者でありながら数々の功績を残した森盲天外（本名・森恒太郎、1864～1934）の新出資料を紹介し、その中の一編を翻刻した。これらにより、森盲天外の文学的価値や当時における社会的意義、歴史的意義を考察し、障害当事者作家としての森盲天外への再評価を進めた。

〔区 分 D〕

木田 綾子

遠隔授業の取り組み

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

ドイツ語教育研究会会報、第31号、pp62-63、(2021.3)

2020年5月11日から8月4日までの新居浜高専で行った遠隔授業（前期12回分）の取り組みについて報告した。遠隔授業で資料作成を担当した科目は、初級ドイツ語（4年生対象）、中級ドイツ語（5年生対象）、国際文化理解（専攻科1年対象）である。この三教科に関する授業内容、資料、授業構成などについて報告し、最後に遠隔授業全般について感じた点をまとめた。

〔区 分 E〕

野田 善弘

Production of Japanese Chinese Technical Term Dictionary

野田善弘*1、趙菲菲*2、房冠深*2

*1 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*2 津山工業高等専門学校総合理工学科

The 4th NIT-NUU Bilateral Academic Conference 2021、(2021.9)

筆者が所属する高専中国理解・中国語教育研究会は、『理系のための中国語入門』『理系のための中国語・発展編』を刊行し、理系人材のための中国語教育について研究を重ねてきた。

その研究は、主に両教科書を使用したアクティブラーニング型授業の開発など教育方法を改善するものであったが、筆者はさらなる教材の充実も必要不可欠であると考え、日中工業用語辞典の開発をテーマとして2021年度科学研究費補助金を獲得し、他高専の研究者と協力して辞書教材に取り組み始めた。

本発表では、日中工業用語辞典の製作に関する意義について筆者が報告し、さらにその作製の方法について趙・房両氏が報告した。

野田 善弘

提携校と連携した台湾華語

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

2021年度 第1回 高専中国理解・中国語教育研究会、(2021. 9)

筆者は、本校5年次に開設された選択授業、中国語会話において、台湾華語（大陸で使用される中国語とは微妙な点で異なる台湾で使われている中国語）を扱っている。

本校は、台湾の国立聯合大学と学術交流協定を締結し、その華語文学系の学生を毎年中国語教育実習生として受け入れ、国際交流の活性化を目指してきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実習生を受け入れることが2020・2021年においてはかなわなかった。聯合大学の学生と本校の学生が交流する貴重な機会が失われたことは双方において大変残念であり、そこで筆者はこれまで対面で実施してきた実習を2021年7月・8月においてオンラインで行った。

筆者は本研究会において、そのオンライン中国語教育実習の方法と実際の様子と、参加した本校学生の評価をまとめ、報告した。

野田 善弘

科研「中日・日中工業用語辞典の開発」進捗状況について

野田善弘*1、房冠深*2

*1 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*2 津山工業高等専門学校総合理工学科

2021年度 第2回 高専中国理解・中国語教育研究会(2021. 11)

筆者はすでに「The 4th NIT-NUU Bilateral Academic Conference 2021」において、2021年度採択された科研「中日・日中工業用語辞典の開発」について報告を行った。

本研究会では、筆者が改めて製作途上の辞典の概要について報告し、房氏から用語収集の方法と現状について報告された。

佐渡 一邦

談話イントネーションにおける末尾の機能について

佐渡一邦*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等専門学校英語教育学会第44回研究大会(2021. 8)

イントネーションによって区切られる単位を「調子単位」と呼ぶが、調子単位の最初のアクセントのピッチの高さを「キー」、最後のアクセントのそれを「末尾」と呼ぶ。キーは論理的関係を表し、末尾は聞き手が同じ高さのピッチで答えることへの期待を示すとしている。コーパスの調査を行うとアクセントが一つしかない調子単位である「極小調子単位」が半数近くを占め、調子単位内でキーと末尾が同じ音節上に存在するということになる。極小調子単位においてキーと末尾が同時に機能することは可能であるが、全ての極小調子単位にこのことを当てはめるのは無理があり、キーと末尾の機能を検証していく必要がある。

木田 綾子

ドイツ文学（18世紀）

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

南山大学（リモート講演）、(2021. 7)

南山大学の学部1年生向けに18世紀のドイツ文学について講演した。レッシングやヴィーランド、ゲーテ、シラーなど、18世紀のドイツ文学を代表する作家の作品、時代背景、作品の特徴などを紹介した。とりわけ、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』に関しては、作品分析一例を挙げ、文学研究の方法を提示した。全体的に文学に取り組む面白さが伝わるよう試みた。

塚本 亜美

遠隔授業による英語の授業 - 高専3年生を対象とした技術英語のケース -

塚本亜美*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等専門学校英語教育学会第44回研究大会、(2021.8)

これは新居浜工業高等専門学校で2020年に実施された、英語の遠隔授業の実施報告である。本報告では、どうやってWeb Classを介して授業が行われ、どうやって教員と学生が相互に通信していたのかを説明する。高専ではWeb Classという既存のプラットフォームを使い、遠隔授業を実施していた。黒板の代わりにパワーポイントファイルが用いられた。また、学生アンケートの結果からこの遠隔授業に対する評価についてまとめた。この口頭発表をもとにして、全国高等専門学校英語教育学会の研究論集第41号で論文を発表した。

塚本 亜美

多文化社会—アメリカ・ニューヨークについて

塚本亜美*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜高専市民講座、(2022.1)

ニューヨークは世界経済や文化の中心地であり、多くの民族が暮らすメトロポリスである。講師が自身の異文化体験を語ることで、市民が海外の事物や多文化社会に関心を持ってくれることを目的としている。講師が同地で撮影した写真を見せながら、多民族・多文化社会について紹介する。移民やLGBTの人々が、社会の中で市民と融合し社会の一員として自己を実現している様子を、実例を交えて話す。

沼田 真里

キーワードで読む！子規、漱石、鷗外

沼田真里*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜高専市民講座、(2021.11)

本講演は、明治の文豪である正岡子規、夏目漱石、森鷗外について取り上げた。文学を読む方法として、テーマ(キーワード)で分析する手法を紹介した。その後は、実際にエピソードを取り上げながら、クイズ形式も取り入れ、〈食〉〈女性〉というキーワードにそって解説した。感想では、キーワードでみることで文豪のいろんな生活面や性格面がわかって面白かった、このような講演は初めて面白かったなど、多くの感想をいただいた。講演者としても、いろいろな反応を受け取り、大変有意義な時間となった。

濱井 潤也

合理的配慮への学生の理解の現状—合理的配慮をする側の障害理解教育に向けて—

濱井潤也*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

全国高等教育障害学生支援協議会 AHEAD JAPAN 2021 年度全国大会実践発表(オンライン)、(2021.8~

2021. 10)

2016年の「障害者差別解消法」施行以来、教育現場では障害学生への「合理的配慮」が喫緊の課題となった。しかし障害者を「迷惑をかける存在」とする見方も根深く残っている。この見方に陥る思想的原因の一部は「合理的配慮」等の弱者支援を善意による「不完全義務」とする考え方である。すなわち支援しない自由もある以上、支援は不必要な負担、迷惑になる。これは弱者の困窮を「自己責任（すなわち「私の責任ではない」）」とする見方と表裏一体だが、近年ではこれに対抗してマイケル・ウォルツァーやトマス・ポグゲらを中心に弱者の困窮を強者の責任とし、弱者支援を「完全義務」に位置づける試みも盛んである。障害理解教育でも「社会的障壁」の概念などは障害者の窮状の責任が、すなわち「合理的配慮」の「完全義務」が社会を設計してきた多数派、健常者にあることを示唆する。

しかし現状の障害理解教育は「合理的配慮」の倫理的正当性の問題をほとんど論じていない。小中高の障害理解教育の中心は「障害シミュレーション」や「交流および共同学習」であり（樋口 2019）、大学の特別支援教育の主な内容は「制度理解」、「障害の特徴理解」、「指導・連携法」となっている（権 2019）。すなわち「なぜ健常者が障害者に配慮しなければならないのか（なぜ障害者ばかり特別扱いされるのか）」という倫理的正当性についての問いが無視されることによって、一部の健常学生の不公平感が解消されていないと考えられる。

そこで本発表では筆者が属する新居浜工業高等専門学校に実施したアンケートを分析し、どの程度の学生が不公平感を抱いているのかを、「合理的配慮」の理解の仕方から明らかにした。